

一中だより

令和8年4月13日

第2号



作成者：荒川区立第一中学校長 小柴 憲一

あいさつ

第一中学校の校長として着任して2年目になります 小柴憲一 といいます。1年間よろしくお願いたします。

さて、前年度も年度初めに「一中だより」でお伝えしたのですが、私の信念として変わらないことですので以下の2点について改めてお伝えいたします。

- 1 一人一人の子どもを大事にする
- 2 社会を構成する一員としての自覚を高める

「一人一人の子どもを大事にする」というのは教員として当然のことと考えております。子どもによって特性は異なりますが、どのような特性のある子どもでもこの世に誕生してから、これまで保護者の方の深い愛情により育ててきたことに変わりはありません。乳幼児のころに夜泣きが激しかったり、一語文を発するのが遅くて心配をかけたりした子どももいるでしょうし、中学生になるまで、大きな病気やけがをした子どももいるでしょう。

保護者の方がこれまで大切に育ててこられたお子さんだからこそ、私はどの子どもも大事にしなければならないと考えております。私は、私自身の態度でそれを子どもたちに示していきたいと考えております。

「社会を構成する一員としての自覚を高める」というのは子どもたちが中学生という発達段階だからこそ必要なことなのです。

中学生になると思春期を迎えるようになり、保護者とは異なる自分独自の内面があることに子どもたちはすでに気付いています。また、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出し、大人からの評価よりも仲間同士の評価を意識するようになります。

つまり、自立し始め自分たちの世界をつくり始めようとする時期なのです。だからこそ、自分たちの世界をつくるのなら、社会に目を向けさせ、社会から学び、望ましい世界をつくらせたいのです。それが、専門委員会であったり学級・学年であったり部活動であったりし、それらの自治活動を経験して、社会を構成する一員としての自覚が高まっていくものと考えています。

一中の子どもたち一人一人を大事にし、一人一人が社会を構成する一員としての自覚が高まっていくよう経営してまいりたいと思います。

最後に、昨年度はISCの活動の幅広さと活動の意味の深さに感銘を受けました。「できるときに」「できる人が」「できることを」を合言葉に、活動できる方がISCをサポートしていただくことにより、結果的に本校を支えてくださっていることはとてもありがたいことです。

保護者の方にとっては、すべてがボランティアではありますが、どうかISCを通して学校の教育活動にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

1学期が始まる

昨年度、一年間子どもたちを見ていて、一中の子どもたちは「節度がある一方でエネルギーを発揮する場面を知っているな」という感想を受けました。

この子たちを見ていて、私の夢である高い生徒会力で自分たちを治め、毎年度教員が異動しても、3年生が卒業しても、生徒会力はそこに残り、秩序のある生徒会を継承していく組織体を

作ることができるのではないかと感じました。

そこで、1年生のいない、2・3年生だけの始業式で以下の話をしました。

令和8年度が始まりました。

私にとっては校長として一中に着任2年目となります。しつこいようですが今年度、皆さんにはさらに生徒会力を高めてもらいたいと思っています。

生徒会力とは、決められた仕事いわゆるルーティーンをこなすだけのものではありません。

生徒会の中の課題や問題を把握し、それを解決していくのが真の生徒会力です。

実際、昨年度も卒業した元3年生を含めて、生徒会の中でいくつかの問題があったはずで
す。「遅刻するなど時間を守ろうとしない人がいる」「授業中、先生の指示を聞かない人がいる」
「違反物を持ち込んでいる人がいる」「特定の部活で人間関係のトラブルが生じている」「掃除
道具を大切に扱わない人がいる」など思い当たる節はありませんか？

また、課題もあります。「手洗い場の上の窓ガラスが汚れているのにそのままになっている」
「ロッカーの中がきれいに整理整頓されていなく床にプリントなどがこぼれ落ちている」「欠席し
ている人の机の上にプリントが置いたままになっている」「給食時間の放送がマンネリ化してい
る」「場に応じた挨拶ができない人がいる」など、これも思い当たる節はありませんか？

これらをただ「こうしてください」と協力を呼びかけるだけではなく、どう解決していくのかの
策を積極的に考え、実際の行動に移して、生徒会員がよりよい生活のあり方を望むような風土
を作り上げていくのが生徒会力なのです。

「悪いことをしてしまって先生に叱られる」ではなく、そもそも良くないことをしにくい風土を
作り上げていくのです。「先生に指示されて整理整頓をする」のではなく、そもそも整理整頓さ
れた状態を好みその状態を維持していきたいと思う風土を作り上げていくのです。

池谷会長が毎回の生徒会朝礼の最後にとってもいいことを話しているのですが、皆さんは課
題の理解にとどまっていて、その解決に向けて策を考えていかないのが、今の生徒会員たちな
のです。

そこで今年度は、各専門委員会・実行委員会・部長会や係・担当の具体的な行動に期待しま
す。そして、私からも解決すべき課題を生徒会全体に指摘します。具体的にはゴールデンウィ
ーク明けの5月11日の全校朝礼で1点についてだけ話をしますので、それを受け生徒会本部は
運動の名称を考えスローガンを作成し、生徒会新聞「DREAM」に記載して発行するとともに、
生徒会朝礼で会長の言葉で全生徒会員に発信してもらいます。

その後は、生徒会本部が掲げたスローガンの具現化のために各専門委員会・部長会は「自
分たちの委員会で何ができるか」を考えてもらい、様々な取り組みや強化期間・キャンペーン
の設定などを企画してもらい、生徒会本部と各専門委員会・部長会の組織関係を有効に生か
してもらいます。

専門委員会によっては、行動に移すのが後期になってしまうこともあるかもしれません。その
場合は2年生から選出される次期生徒会長のもと実践してってもらいます。

こうして1年間かけて、私が指摘する1つの課題を解決しようと生徒会員みんなで取り組むこ
とにより、生徒会の風土の何かが変わったことに気づき、同時に生徒会力が高まったというこ
を実感することができると思います。

明日、1年生が入学してきますが、1年生は生徒会をまだ知らないのです、ここにいる2・3年生
の皆さんの本気が必要なのです。

最後に、池谷会長のもと、先輩方が高められなかった生徒会力を、ここにいる2・3年生の皆
さんの実践により1段も2段も高め、新たな一中生徒会を作り上げていってもらうことを期待し
て、私の話を終わります。

本校で問題が多発しているわけではありません。

子どもたちが最も取り組みやすいお題を提示し、各組織で課題解決のために策を練って全校
生徒を動かす経験をすることにより、最終的にどの子どもにとっても居場所があり、過ごしやすい
風土をつくりあげていくことができると考えています。

そして、それが「一中生徒会」の新たな伝統として継承されていくことを期待しています。